



2022年度修練 2月号



元旦歩こう会



改めまして明けましておめでとうございます。
1年間頑張っていきましょう！

今年の参加記念品は
エコバッグと
記念ボールペンでした。



新年式典リハーサル



2022年度の基本資料の
現物です。
寅年ということで、基本カラー
は黒と黄色の虎柄をイメージし
てデザインいたしました。



1月17日豊栄地区公民館大講堂にて、
にいがた北青年会議所【新年式典】のリ
ハーサルを行う予定でしたが、新型コロ
ナウイルスのまん延防止措置により、開
催を延期することとなりました。

延期先の日程は現段階では決まってお
りませんが、犬井理事長の熱い想いによ
り必ず開催することを決意しましたので、
今しばらくお待ち下さい。

2022年度初の事業である
「元旦歩こう会」へ参画して参りました。

にいがた北青年会議所としても、
一年の始まりとなるこの催しに毎年
参加しており、今年も参加人数
が制限される中、開催されました。

参加者の皆さんにはまだ暗い内から
集まり、主催者挨拶や準備体操の後、
参加記念品を受け取り出発して行かれました。



2022年度 公益社団法人
日本青年会議所 第71代会頭
中島 土

2022年度スローガン
愛が、希望に変えていく。
←は第71代会頭
中島 土君の所信表明で
す。
日本青年会議所もにいが
た北青年会議所も共に
1年間頑張っていきま
しょう！

京都会議



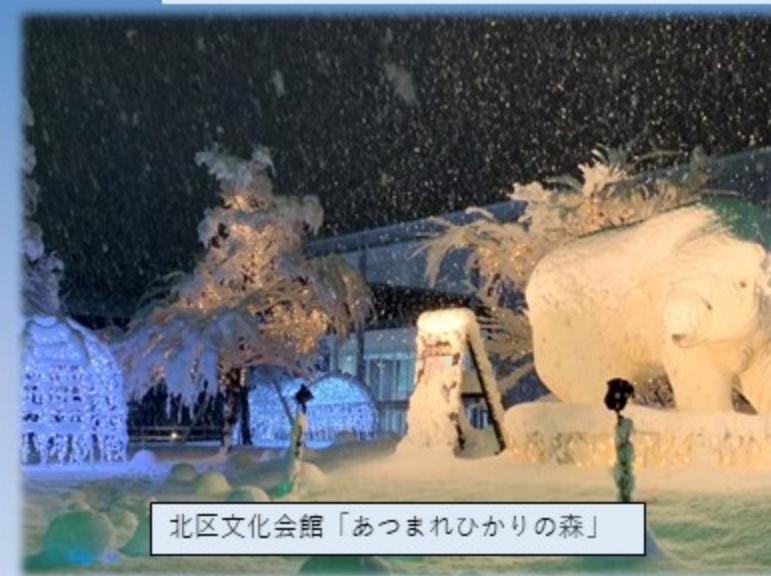
2022年度の京都会議は、当初現地にて
開催される予定でしたが、新型コロナウイル
スの影響により今年もWEB上でその様子を
観覧するスタイルがとられました。

←は「狙って広める運動の作り方セミナー
～ストーリーのある運動は自走する～」の様
子です。

二年連続で京都会議に参加できない状況が
続き、現役メンバーがそろって現地へ赴く機
会が少なくなっていますが、今年度も一致
団結し邁進していきます。



北区から見た五頭連峰



北区文化会館「あつまれひかりの森」



北区のあれこれ



福島潟の名前の由来って？

時は西暦1700年代初め、日本は宝永～享保と呼ばれた時代。新発田の地に紫雲寺というお寺があり、そのそばには紫雲寺潟がありました。

お寺には若い長老が住んでおり、村の娘たちが長老様を一目見ると、物思いにふける不思議な病にかかったそうです。

村の長者（お金持ち）の娘であったお福もまた長老様に恋い焦がれておりました。

しかし、お福が長老様に想いを伝えたところ「仏の道に使える皆で諦めて欲しい」と言われてしまいました。

叶わぬお福の想いは強い怒りに変わっていきました。

怒りの絶頂に達したお福は長老様を紫雲寺潟に突き落とすと、自身は大蛇の姿になり、長老様の亡骸をくわえ、潟の奥深くまで沈んでいました。

その後、紫雲寺潟が干拓によって小さくなると、お福は住みづらさから、近くにある別の潟に移り住むこととなりました。

その方をお福の名を取って「福島潟」と呼ぶようになったと伝えられているそうです。

お福さんの悲恋はいかがでしたでしょうか。
まさか福島潟の名前の由来にこういった物語があったとは驚きでした。
北区の郷土博物館には、このお福と長老様のアニメーションが上映されています。
子供と一緒に見やすい日本昔話風になっておりますので是非一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。

北区の歴史（先史時代）

北部の砂丘地帯を除く福島潟や豊栄低地は、標高は0～2メートル未満が大半で、洪水による湛水の常襲地帯です。こうした地域でも昔から人は住んでいました。

北区には原始・古代・中世の遺跡が111カ所発見されています。出土遺物などから、北区の大地に人々が初めて痕跡を残したのは砂丘上です。一番内陸にある砂丘の上黒山遺跡、法花鳥屋遺跡では、およそ5,500年～5,000年前の縄文時代前期後半～中期初頭の土器が発見されています。このことから内陸にある砂丘ほど形成時期が古いことがわかりました。引越遺跡、鳥屋遺跡では、およそ2,500年前の縄文時代晩期末の土器や石器がたくさん出土し、定住したことがわかっています。稻作が行われていたかは不明ですが、出土遺物から魚や貝、小動物、木の実を探って暮らしていたと思われます。引越遺跡は引き続き、弥生時代も営まれます。

古墳時代になると大規模な遺跡が多く、上黒山遺跡、松影遺跡の砂丘上のほか、葛塚遺跡、正尺遺跡など旧大口川自然堤防や上土地龟遺跡、城ノ潟遺跡など駒林川自然堤防へも進出しています。稻作農耕に伴う低地の開発が本格的に始まったことを物語っています。

奈良・平安時代になると福島潟の東岸や南岸にも遺跡が増加し、人々が積極的に低湿地帯に進出していきます。一方、砂丘地帯の新潟東港の出山下層遺跡・太郎代遺跡、神谷内遺跡では塩作りが行なわれていました。

中世の遺跡は、砂丘上の出山上層遺跡、横井遺跡、阿賀野川自然堤防の下前川原遺跡、森下遺跡で集落が営まれました。城館としては、長場館、城山館、引越城が知られ、さまざまなお伝説が今日に伝えられています。また、太郎代、太夫浜、神谷内、里飯野、上堀田などに出湯系石仏が点在し、人々の生活を探る手がかりとなっています。



北区で出土した土器



新潟東港とは
新潟市北区と聖籠町にまたがる地域に建設された掘込港である。開削によって生じた土は、東港と同時期に建設が進められていた関屋分水路からの開削土と共に、新潟バイパスや亀田バイパスの盛り土として活用された。開港当初は交通網も未整備で公共交通も脆弱であり、周辺は民家が点在する程度であった。そのため、海外から入港する船の乗組員は、新潟港での入港先を「East」と伝えられると、ひどく怪訝な態度になるほどだったという。その後1980年代に入ると港内の係留施設が整い、航路網が充実、更に周辺の交通網が整備されるにつれ港内のファシリティは徐々に向上した。港周辺は工業団地として製造業・非製造業を問わず、数多くの企業が製造拠点や出先を設けている。なお南埠頭には入港船の乗組員や周辺企業の従業員向けの厚生施設として県が設けていた「にいがたポートセンター」があり、英語、ロシア語、中国語を話せる職員が常駐していた。しかし外国人船員の利用者が減少し、機能を果たさなくなったことから2006年末をもって閉鎖・廃止された。東港一帯はみなとオアシスとして登録していて、聖籠町海のにぎわい館を代表施設とするみなとオアシス聖籠として周辺で行われる海洋レクリエーションやイベントの交流拠点となっている。



過去にはこんな大型船も寄港しています。

実際に乗船してきました！

歴史豆知識

およそ150年前の戊辰戦争の際、北越宣戦の新政府軍を支援するために、1868（明治元）年8月1日、西郷隆盛が300名の兵士を引き連れ約1ヶ月間の間、松浜に滞在しました。

他にも、新発田にあった新政府軍の本営から、参謀の黒田清隆、山県有朋らが訪れたこともあるという。

